



手稲郷土史研究会

江別方面視察研修に参加して

9 年 9 月 23 日 (土)

前田在住 濱埜 静子

天気予報が少し気になるが、18 名が乗る大型バスは手稲区役所前をゆっくりとすべりだし目的地を目指した。北海道立埋蔵文化財センター、北海道立図書館、江別河川防災ステーション、江別市郷土資料館、江別市旧町村農場への研修に思いが膨らんだ。

昨日、かでの 2.7 で「縄文」と云う舞台を見て、今日は北海道立埋蔵文化財センターにと秋の歴史三昧である。

北海道立埋蔵文化財センター

出迎えて頂いた学芸員の説明で、現在木古内で（収集？）された土器の破片を繋ぎ合わせている作業室へ、実際に土器を繋ぎ合わせたり、手に触れたりし、土器には白い筆で数字が書かれてあり、この書き込みが入っているのが本物ですとの説明に感動した。また（手稲遺跡、N1 についての質問）。次に収蔵庫に行ったが、部屋の中は山のように積み重ねられた土器がある。修復が終わると一部は地元とに戻しているとの事。最後は展示室の道内で出土された場所や特別展などの説明を頂いた。



北海道立図書館



主に資料収蔵庫を見学、ここでは「パンフレット」とか、「冬期オリンピックの看板？など何でも集めるのです」と笑いながらの話に引き込まれた。他に手稲についての資料が用意されており、軽川滝ノ沢温泉風景、手稲町地図、新川開削建議図（1871 年）、「北海道号ナショナル北海社」の 1914. 年第 2 巻第 15 号特集に載っていた北海道の代表的農牧場（前田農場軽川本場、茨戸支場）等、みんな夢中で見入っていた。午前の研修は終わり、江別市民会館レストランで昼食。

午後は江別市河川防災ステーション、北海道の災害復旧のための資材などを備蓄されており、実際に昨年の日高地方の水害に使用したとの事。又、室内で、旧江別港の地図を見ながらの説明、（石狩川の航路、外輪船）を受ける。

江別市郷土資料館、



学芸員の旧江別市資料館から現在の郷土資料館の説明があり、2階の展示室に案内され目を見張る、縄文時代からの土器がずらり、整然と時代の順にわかりやすく並べられている。



その中に江別で発掘された手稲式縄文土器もあり。又、北海道に「古墳」があることを知らなかった。国指定「江別古墳群」のジオラマを見ながら私達もこの様な郷土資料館があればと思い、資料館を後にした。

江別市旧町村農場、

最後の目的地で雨が降り始め、時間も少なくなり駆け足でお話を聞き樽川より昭和3年に対雁に移転その時の建物を見学、現在の「町村農場」は、平成4年篠津へ移転されている。



(文責濱埜)

閑中忙あり！？—————

穂穂在住 一ノ宮博昭

中央小学校でゲストティーチャー

手稲中央小学校(山崎一彦校長)の依頼で29年8月30日、3年生121人を対象にゲストティーチャーをしました。テーマは、小学生時代の学校と遊び、そして軽川時代のお店の様子。持ち時間は1時間。遊びでは、市販の5倍はあるケン玉を見せ、実際にやってみました。これまでうまくいったこともあったのに、年のせいなのかさっぱりできませんでした。

釘さし、馬乗りといった遊びもありました。女の子は輪になってお手玉を数え歌に合わせて器用に手先を動かしていました。

商店街は今と変わりなく軒を並べていました。そんな中、金ぐつ屋(蹄鉄業)がなんとも珍しく、飽きずに見入ったものです。農作業や荷物の運搬に大切な馬の爪がすり減っては大変なので、鉄のスパイクをつけるのです。真っ赤に焼いた鉄を爪に押し当てると、なんとも嫌なおいがたちこめます。爪にぴったり合わせるために、この作業があるのです。

駅には、手稲鉾山の鉾石を運搬する引き込み線路があり、いつも入れ替え作業が続いていました。目の前をSLが行き来しました。

どうしてこんな鐵の塊が動くのか不思議で目を凝ら

次回定例会の予定
H29年11月8日(水)
「札幌市の
埋蔵文化財」
札幌市埋蔵
文化財センター
専門員 藤井誠二様
区民センター3F
視聴覚室

したのを思い出します。こどもたちから沢山の質問がでました。

冬の大掃除にはバケツで雪を校舎に投げ込み、長靴のまま教室を滑って遊び、汚れを吸い取った雪を窓から投げ捨てたこと、自宅から荒なわを持参して、ストーブのたきつけ用となる落葉松の枯れ枝を全校生で裏山にでかけたこと、運動会の組体操ではいつも土台ばかりで面白くなかったことなどを説明しました。

生徒、児童を対象とした講話は、27年10月15日、稲穂中の開校25周年記念事業で全校生365人を対象とした「稲穂の歴史」につぐものとなりました。

コスモスロード、HBC-TVに登場

9月19日午後3時44分からの「今日ドキッ」。卓田和弘アナ、小橋亜樹レポーターが稲雲高校の高い擁壁に張り付いたツタを「きれいだね」と話し合いながら稲雲坂を下り「ナ、何、この花」とびっくりして、コスモスロードが登場します。秋風にそよぐ花の放列は今が見ごろで、散策する区民らが思わず足を止めています。



コスモスロードは、手稲の飲食店に集う飲み仲間が20年前に「花族会議」の愛称をつけて発足、今年5月23日にタネまきをしました。固まった約束事はなにもなく、正式に会員が何人なのか、誰が責任者なのかははっきりせず、都合のつく人が現場に足を運んで作業を続けてきました。

この日も、沖田さん、一ノ宮ら世話役クラス4人が現場に集まり、説明役に

なりました。

コスモスロードは、稲雲高校と高速道路の間の市道沿いで、長さは約300mあります。都合のつく人が雑草刈や施肥、間引きなどの作業にあたっています。

この道の小樽側に特養ホーム「手稲ロータス」があります。市道の高台からは石狩湾の展望、夜になると銭函、曙、前田、西区、中央区、石狩の夜景を楽しむことができます。

取材班はテクテク坂を下り、本町の楽器店、パン屋、餅屋、床屋、銭湯などを突撃取材し、約1時間の番組に仕立て上げました。

・写真右いまが見ごろのコスモスロード・写真左下一ノ宮会員と沖田会員

平成29年9月13日の定例会にご講演を頂きました北海道開拓の村学芸委員細川建裕様の「新川がつくられた」はご多忙と知りながら第118号紙上への原稿をお願いしましたところ、快く承諾いただきましたが、118号に間に合いませんでした。あらためて第119号紙上に発表させていただきます、どうぞ期待下さい

(広報部佐々木)